

Title	Study of Double Beta Decays of $^{48}\text{Ca}$ with $\text{CaF}_2$ Scintillators
Author(s)	梅原, さおり
Citation	大阪大学, 2004, 博士論文
Version Type	
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/45137">https://hdl.handle.net/11094/45137</a>
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、 <a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed">〈a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed"〉</a> 大阪大学の博士論文について <a>〉</a> をご参照ください。

***Osaka University Knowledge Archive : OUKA***

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

氏名	梅原 さおり
博士の専攻分野の名称	博士(理学)
学位記番号	第 18381 号
学位授与年月日	平成 16 年 3 月 25 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当 理学研究科物理学専攻
学位論文名	Study of Double Beta Decays of $^{48}\text{Ca}$ with $\text{CaF}_2$ Scintillators ( $\text{CaF}_2$ シンチレータを用いた $^{48}\text{Ca}$ の二重ベータ崩壊の研究)
論文審査委員	(主査) 教授 岸本 忠史  (副査) 教授 山中 卓 教授 能町 正治 教授 中野 貴志 助教授 阪口 篤志

## 論文内容の要旨

素粒子物理学研究の中で、ニュートリノはスピン左巻きのみ存在し、質量は持たないとされていた。しかし、Super-K、KamLAND、SNO などのニュートリノ振動の測定結果から、ニュートリノの質量の存在が示された。

ニュートリノを放出しない二重ベータ崩壊の観測は、振動実験によるニュートリノ質量差の二乗の測定とは異なり、質量の絶対値とその起源を探ることができる唯一の方法である。本研究は、二重ベータ崩壊核のなかで最も高い  $Q_{\beta\beta}$  値 4.27 MeV を持つ  $^{48}\text{Ca}$  核の研究を行なう。この  $Q_{\beta\beta}$  値領域は、環境  $\gamma$  線からの影響をうけないため、バックグラウンド事象の評価が容易である。この核を用い、ニュートリノを放出しない二重ベータ崩壊の研究、さらに原子核モデルを限定することに有効なニュートリノを放出する二重ベータ崩壊の研究を行なった。

$^{48}\text{Ca}$  核の研究のため、 $\text{CaF}_2$  (Eu) シンチレータからなる大型検出器システム ELEGANT VI を開発改良した。二重ベータ崩壊の測定感度は、バックグラウンド事象量に大きく依存する。特に ELEGANT VI システムにおいて、検出器外部起源のバックグラウンドは、反同時計数測定により低減化される。しかし、結晶内部起源のバックグラウンドは、反同時計数測定により低減することができず、二重ベータ崩壊の測定感度に大きく悪影響を与える。そのため、結晶内部起源によるバックグラウンドの調査を行なった。その結果、トリウム系列にふくまれる  $^{212}\text{Bi} \rightarrow ^{212}\text{Po}$ 、ウラン系列にふくまれる  $^{212}\text{Bi} \rightarrow ^{212}\text{Po}$  らの連続崩壊が、 $\text{CaF}_2$  (Eu) 結晶でそれぞれ 4.2 MeV、4.8 MeV の最大エネルギーを与え重要なバックグラウンド源となっていることがわかった。

今回、われわれは、この連続崩壊を除去するため、ELEGANT VI システムに波形解析のための Flash ADC を導入し、バックグラウンド事象の低減化につとめた。その結果、バックグラウンド事象をそれまでの 1/100 程度に低減することに成功した。

この低バックグラウンド環境下で、二重ベータ崩壊のための測定を 204 日行ない、その結果、ニュートリノを放出する崩壊の半減期として  $4.6^{+9.6}_{-1.9}(\text{stat.}) \times 10^{19}$  年、ニュートリノを放出しない崩壊の半減期の下限值  $> 1.3 \times 10^{22}$  年を得た。

さらに、 $\text{CaF}_2$  (pure) シンチレータと液体シンチレータからなる新しい検出器システム CANDLES の開発を行なった。CANDLES による二重ベータ崩壊の研究のために、 $\text{CaF}_2$  (pure) における波形弁別法を確立し、電子と  $\alpha$  線

を高効率で弁別できることを確かめた。また、結晶の高純度化、連続崩壊の除去技術の改善を行なった。その結果、CANDLES システムはニュートリノ質量にして 0.5 eV の感度を持つことを証明した。

### 論文審査の結果の要旨

ニュートリノを放出しない二重ベータ崩壊の観測は、質量の絶対値とその起源を探ることができる方法である。本研究は、二重ベータ崩壊核のなかで最も高い  $Q_{\beta\beta}$  値 4.27 MeV を持つ  $^{48}\text{Ca}$  核を用い、ニュートリノを放出しない二重ベータ崩壊の研究、さらに原子核モデルを限定することに有効なニュートリノを放出する二重ベータ崩壊の研究を行なった。

二重ベータ崩壊の測定感度は、バックグラウンド事象量に大きく依存する。本研究で観測に用いた ELEGANT VI システムにおいては、結晶内部の不純物を起源とするバックグラウンド事象が二重ベータ崩壊の測定感度に大きく悪影響を与える。特に、崩壊系列にふくまれる  $^{212}\text{Bi}\rightarrow^{212}\text{Po}$ 、 $^{214}\text{Bi}\rightarrow^{214}\text{Po}$  らの連続崩壊が、 $\text{CaF}_2$  (Eu) 結晶で重なり合う信号となり、それぞれ 4.2 MeV、4.8 MeV の最大エネルギーを与え重要なバックグラウンド源となっていることを解明した。

この連続崩壊を除去するため、ELEGANT VI システムに波形解析のための Flash ADC を導入し、バックグラウンド事象の低減化につとめた。その結果、バックグラウンド事象をそれまでの 1/100 程度に低減することが達成できた。

この低バックグラウンド環境下で、二重ベータ崩壊のための測定を 204 日行ない、その結果、ニュートリノを放出する崩壊の半減期として  $4.6^{+9.6}_{-1.9}(\text{stat.})\times 10^{19}$  年、ニュートリノを放出しない崩壊の半減期の下限値  $> 1.3\times 10^{22}$  年を得た。

さらに、 $\text{CaF}_2$  (pure) シンチレータと液体シンチレータからなる新しい検出器システム CANDLES の開発を行なった。 $\text{CaF}_2$  (pure) における波形弁別法を確立し、電子と  $\alpha$  線を高効率で弁別できることを確かめた。また、結晶の高純度化、連続崩壊の除去技術の改善を行なった。

その結果、CANDLES III システムはニュートリノ質量にして 0.5 eV の感度を持つことを証明した。

本研究は現在最重要課題といえる二重ベータ崩壊の研究で新しい領域を切り開いたものである。よって本論文は博士 (理学) の学位論文として十分価値のあるものと認める。